

## 方向性2 支えあいがやすらぎを生む、あたたかなまちへ

### 【健康づくりと特定健康診査～健康寿命の延伸に向けて～】

- 千葉市は健康づくりに関しては非常によく取り組んでおり、成果もあげている。評価全体にかかわることではあるが、このように成果を上げている分野に関しては、必要に応じて資源の配分を見直していくべき。
- 千葉市では健康寿命の政令市順位が男性と女性の間で大きな開きがあり、このような課題を解決するためには、性差等の属性による意識の違いの分析を行うなど、それぞれの課題に応じた適切な分析を通じた、効果的な施策の展開が求められる。
- 市民が健康的な習慣をつける一助となるよう、自動車に頼らなくても徒歩や自転車で過ごしやすいまちづくりや、運動するきっかけを作るための講座の開催など、部署横断的に健康づくりに取り組んでいただきたい。
- 特定健康診査・特定保健指導に関しては、そもそも健康である若年層の受診率の伸び悩みはある程度避けがたいことに加えて、受診率が他の政令市等と比較した場合に相対的に高いことや医師の側にも指導にかかる負担が生じることを考えると、現時点での市の取り組みは十分に評価できる。
- 市立病院は救急医療などの不採算部門を担わなければならない性質上、民間の病院に比して赤字体質となる傾向があるため、民間の経営と同様の評価を行うことは適切ではない。
- 「かかりつけ医を持っている」という指標について、相対的に健康に対する意識水準が低い若年層が評価を全体的に押し下げているのは、ある程度避けがたい側面がある。また、医師の側には近年の診療科目の細分化と専門化の影響を受けて、かかりつけ医の役割を担うことが難しくなっている実情があることを認識しておく必要がある。

## 新基本計画審議会第3回政策評価部会 論点メモ（案）

### 【地域包括ケアシステムの構築の推進】

- 「高齢者の大幅な増加に伴う社会保障費の増大が、財政上の課題である」ということについて、市民の理解を得て、地域包括ケアシステムの構築自体が目的化しないように留意しながら、取り組んでいただきたい。
- コミュニティの希薄化が指摘されている中で、「一人暮らしや支援の必要な高齢者が地域で見守られて安心して暮らすことができる」という市民実感につなげるためには、地域活動から公的なサービス、専門職への橋渡しに至るまで、機能・役割分担を綿密に検討していくことが重要である。
- 見守り活動等については新聞配達などの日常生活に関連する事業者と連携する体制を整えることを検討するなど、地域特性を踏まえながら、地域活動に期待する部分とそれ以外の担い手に期待する部分を慎重に検討していくことが求められる。

### 【子育て】

- 待機児童ゼロの達成や指標の達成状況を見るに、保育の量と質、両面での取り組みは市民の実感に届いており、評価できる。今後、さらに指標を向上させるためには、保育士の負担軽減や処遇改善とともに経験年数に応じた研修を企画し、保育士が経験を積みながら働き続けられる環境を整え、市民に対してもPRしていくことが重要。
- 市民が「子育てと仕事を両立している」と感じるためには、市や個人だけでなく企業の理解・協力を得ていくことが重要である。このため、病児・病後児保育など、様々な保育需要にこたえる基盤整備を進めながら、育児休業取得の促進等を図るため、企業側の長期的なメリットを「見える化」する取り組みが有効ではないか。
- 子育てに対する不安感等を払しょくするため、妊娠期からこどもの就学前まで、継続的に家族全体を支援する、フィンランドにおける「ネウボラ」のような取り組みを検討していただきたい。

## 新基本計画審議会第3回政策評価部会 論点メモ（案）

### 方向性3 豊かな心が育ち、新たな価値が生まれるまちへ

#### 【学校教育】

- 学力について指標では良い結果となっていないところもあるものの、全国学力・学習状況調査の結果ではすべての教科で全国平均を上回っているなど、全般的にはよくやっていると感じる。引き続き、ICTの導入など社会情勢の変化を取り込みつつ、高い教育効果を生み出し、より創造的な人材を育てていただきたい。
- こどもが社会に進出していくことを考えると、学力の向上もさることながら、学校での集団生活の中で育まれる非認知的能力を育て、これを高めていく取組みも求められるので、指標の導入も含めて検討していただきたい。
- 指標「読書の習慣のある児童の割合」では、学校における読書時間を算入していないことから未達成となっているものの、実際には学校図書館指導員の配置等の取組みが奏功し、1か月間に読む本の冊数が対全国比で約2.3倍に達しており、実態を捉えた評価ができる指標設定が求められる。
- 一方、学習指導要領の改訂に向けた国の議論では、生涯を通じて自発的に学び続ける素地を作ることが重要とされているので、学校での学びから、家庭や社会へ波及させていくことを目指した現在の指標設定は、むしろ先進的といえる。

#### 【生涯学習】

- 刻々と変化する社会情勢の中で、家庭の教育力に関わらず、生涯を通じて自主的に学びを計画・実施できる能力の育成が必要であることから、学校教育の中で図書館などの生涯学習施設を訪れる機会を設け、一定の共通基盤を作っていくことが重要。
- 成人の学び直しについては、社会的要請に基づく機会の提供と個人的要請に基づく機会の提供を分けて考えつつ、地域における知の拠点としての機能を十分に果たし得る大学等と連携・協働し、市民ニーズをとらえた施策展開を行うことが必要である。将来的には、これらの取組みを通じて、減少しつつある地域活動の担い手として、専門的な人材を育てていけるとよい。

## 新基本計画審議会第3回政策評価部会 論点メモ（案）

### 【共生社会】

- 発達障害の子どもが増加している中で、保護者の中には市のどの部門に相談に行けばよいのか分からないという意見も出てきているので、今後市が住民の多様性に応えていくためにはこども・福祉・教育部門等の各部門が横断的に、より一層連携して取り組んでいく視点が欠かせない。
- 地域包括ケアの構築について、現在は高齢者の対応が中心となっているが、将来的には対象者を区別しない、多様な主体に対応することが理想であるので、それら全てを受け入れ、対応ができるよう人材の育成を検討していただきたい。